



竹嶋信洋

たけしま・のぶひろ
株式会社ベストサポート代表取締役

1976年生まれ、社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会で福祉の志をもち、2011年に千葉市若葉区西葛で独立。事業所を運営したり、相談支援専門員として活動したりするなか、15年4月に選任された同区4丁目自治会会長に就任したのを機に、「障害のある人もない人も共に暮らし」を掲げた「開つくり」に夢中。現在は西葛区3丁目・4丁目自治会相談役、千葉市立貝塚中学校PTA会長/千葉市立北貝塚小学校PTA副会長、一般社団法人スタジオフジ共同代表、NPO法人久慈理事などを兼任。

武内直亮・ブレイン・マークス・ビジネス・コンサルティング・社長の志を継いで独立されたのですが、まずはその経緯からお聞かせください。

竹嶋信洋「ベストサポート代表取締役。父が定年退職になったときに「お前と何かやりたい」といわれたのがきっかけでした。

10年後をリードする 未来企業 122

「支援から共生へ」という目標を掲げ あらたな福祉のあり方を模索中!!

千葉市を拠点に福祉施設の運営などを手掛ける株式会社ベストサポートは、障害児の放課後等デイサービスや障害者の支援施設、グループホームのほか、保護者向けの相談事業や利用者のアフターサービスを展開。そのなかで「支援から共生へ」というあらたな福祉のあり方を模索している。さっそく、両社の竹嶋信洋社長の夢と想いに、株式会社ブレイン・マークスの武内直亮氏がアプローチした。



社員の皆さんとの集合写真

父は8人兄弟の末っ子で、ほかの兄弟がみんな起業していたので、「自分もいつか」という気持ちがあったのでしょう。ただ、父とは私が「福祉の道にすまいたい」といったときに反対された経験があったので、いったんは断りました。ところが、父が間もなく重病にかかったこともあり、その思いを叶えるために会社を立ち上げることにしたのです。ちなみに、会社を設立して約1カ月後に父は他界してしまいました。以来、最期に父の思いを叶えることができたのが、はたして間に合ったのかと自問を繰り返していましたが、とにかく私にとってはそれが起業のきっかけになったのです。

竹嶋「会社をはじめたものの頃は従業員が多かったのではないですか？」

武内「会社をはじめたものの頃は、先打りに不安はありました。当初は資金繰りのタイミングで募金を募る場面もありました。ただ、それからは思ったより順調に完

乗りました。

竹嶋「糸口となったのは創業時から持ちつづけている「そこにニーズがあるかぎりやる」という気持ちでした。これを原動力として事業のリアルディングをはかっていたのです。具体的には従来の福祉施設ではケアが難しく、なかなか受け入れ先を見つけれない重度障害者に焦点を当て、保護者の相談窓口を開設したり、見直しを終えた後もサポートする体制を整えたりと、既存施設でフォローできていない部分を強化していきま

竹嶋「私はけっこう特別な能力を持つ人間ではありません。しかし、「誰ひとり取り残したくない」という思いは人一倍強いので、そのためにやれることをひたすらやってきました。おかげで、こうした取り組みに共感してくれる保護者や支援者の輪を広げることができたように思っています。

武内「ところで、竹嶋社長はどのような福祉の道を選んだのですか。また、どのような考えで現在の業務に取り組んでいますか？」

竹嶋「高校生とともに民生委員や地域住民の立場で生活や福祉全般に関する相談・援助活動を行う、民生委員法に基づいた非常勤の地方公務員を務めていた母から頼まれ、おばあさんの家にお弁当を届けに行きまし

た。そのときに、おばあさんにお菓子を届けてもらったり、いろいろな話を聞かせてもらった。そして「興味を感じた」のがきっかけです。現在の社会では障害者や高齢者との関係が分断がすすみ、誰かに頼りたくても頼ることができず、居場所を失うケースが増えています。高齢者や障害者は、より頼り先がありません。それぞれの需要を踏まえ、あら

た。既存施設でフォローできていない部分を強化していきました。また、安全面や管理面への対応が難しく、ほかの施設が尻込みするようなサービス、たとえば海やプールに連れて行ったり、アルバイトにチャレンジしてもらったりといったことにも取り組んできました。



社員とサービス利用者とのふれあい

竹嶋「施設内に障害者が就労するや仕事を売るスペースを設けたり、地域の高齢者のご自宅を訪問して調理のサポートといった「御用聞き」のサービスを拡大していきたいですね。とくに御用聞きは今、全国的にも注目されていて、社会課題を解決する一助になるといわれています。まさに私たちのミッションに通じるところでもあるので、さらに力を入れていきたいと考えているところです。

武内「素晴らしい計画を思っています。ミッションを成し遂げるために引き続き頑張ってください。



武内直亮

たけうち・なおあき

株式会社ブレイン・マークス・ビジネス・コンサルティングの代表取締役。経営改善、経営支援を得意とし、企業の「本質的な課題解決」に尽力し、多くの経験と実績を積み重ねてきた。人材育成を中心とした人事評価制度の構築や理念を中心とした企業文化を醸成する組織づくりを得意としている。幅広い経験と実績に裏打ちされたコンサルティングスタイルはクライアントから高い信頼を獲得している。

10年後のためのアドバイス!

ベストサポートは重度の障害者支援を軸に、社会とのつながりを再生しようとしている素晴らしい企業です。スタッフ同士でも「できないこと」ではなく、「相手の良いところを見つめる」ことを企業文化として大切にしています。この企業文化を私たちが「ブレイン・マークス」のメソッドと組み合わせれば、大きなシナジー効果を生み出せると確信しています。同社はすでに2032年までに「利用者が安心して暮らせるプラットフォームをつくる」「地域のにぎわいを生み出す」「社員が夢とやりがいをもって働く環境を整える」という目標を掲げているので、今後はその実現に向けた戦略の下、スタッフ教育や人事評価制度などを着実にすすめていってほしいと思います。